

奇書「先代旧事本紀」を読む 邪馬台国の東遷を伝えるか

講師 元産業能率大学教授・日本古代史学者 安本美典

『先代旧事本紀』(せんだいくじほんぎ)は、平安時代のはじめ、830年ごろにできたとみられる。物部氏(もののべし)の家記(家の記録)といえるものである。『先代旧事本紀』は神武天皇よりも前に、物部氏の祖・饒速日の尊(にぎはやのみこと)が畿内へ東遷降臨したことをややくわしく伝える。そのことを支持するような考古学的事実もある。あるいは、これは北九州にあった邪馬台国本体の東遷伝承ではないか。日本古代史の再建のため、『先代旧事本紀』全文を冒頭から注意深く読んでいく。なお、『先代旧事本紀』の序文には、『先代旧事本紀』は、聖徳太子と蘇我馬子(いずれも、7世紀前半ごろまで活躍した人物)が編纂したと記されている。そのため、江戸時代以降、偽書であるとの説もあらわれた。「序文」は、後代の付加として疑うべきである。しかし、本文には『古事記』『日本書記』にはみられない、古伝とみられる記述や、古い用字法などもみられる。また、9世紀前半ごろまでに成立した史書の数は、それほど多くはない。平安時代初期には、存在していた文献であるので、貴重な価値をもつことはたしかである。

今期も引き続き「巻8」「神皇本紀」を読みます。(講師・記)

※2012年4月開講。

※授業開始 20 分前程から受講者による発表(テーマ自由)を行います。(希望者のみ)

<講師紹介> 安本美典(やすもと びてん)

1934年旧満洲に生まれる。京都大学文学部卒業。日本古代史学者。元産業能率大学教授。文学博士。「季刊邪馬台国」編集責任者。主な著書:『神武東遷』(中公新書)、『卑弥呼の謎』(講談社現代新書)、『邪馬台国への道』(筑摩書房)、『巨大古墳の被葬者は誰か』『応神天皇の秘密』(以上、廣済堂出版)、『日本誕生記(Ⅰ、Ⅱ)』(PHP研究所)、勉誠出版から『古代物部氏と「先代旧事本紀」の謎』『日本神話120の謎』『大和朝廷の起源』『邪馬台国畿内説』徹底批判』など古代学シリーズを刊行中。

<各自ご用意ください>

テキスト:大野七三 校訂編集『先代旧事本紀』訓註(批評社)お持ちの方はご持参ください。

コピー教材を実費にて販売します。

日 時 2018年 10/13、11/10、12/8 3回

土曜日 10:00 ~ 12:00

受講料 会員 9,720円(入会金は5,400円。70歳以上は入会無料、証明書が必要です)

※入会金・受講料・教材費等は消費税8%を含む金額です。

※ご入会の優待制度をご利用の方は、お申し出ください。

※日程が変更されることがありますので、ご了承ください。

※講師の病気や、受講者が一定数に達しない場合などには、講座を中止することがあります。

※個人情報は、受講連絡、当社からのお知らせ、企画の内部資料として使わせていただきます。



朝日カルチャーセンター
朝日JTB・交流文化塾

新
宿

〒163-0210 東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル内私書箱22号
tel 03-3344-1945
<https://www.asahiculture.jp/shinjuku>